

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

12月の金融・マーケット動向

マーケット、この1年

主な経済指標の今年1年を振り返って見る。

	日経平均	NYダウ	円・ドル	長期金利	NY金先	CRB指数
1/4	10871	10259	131	1.40	279	194
3/末	11,024	10,403	132	1.40	303	204
6/末	10,621	9,243	119	1.31	314	209
9/末	9,363	7,591	121	1.17	325	226
12/24	8,512	8,448	120	0.92	347	238

(単位：未表示)

粗っぽい表で恐縮だが、この表から何が見えてくるだろうか。見る人によって判断が色々異なってくるのは当然として、概ね次の事実が指摘できると思う。

1. 株価不振が続き底割れ状態となった
2. 年間で見ると円高だった
3. 長期金利の低下が一層際立った
4. CRB指数と金価格は一貫して上昇した

又、この結果でもあるが、株式配当利回りが長期金利を上回るという「利回り革命」が起こった。企業の成長期待がゼロに近付いたのだ。長期金利の歴史的低下と相俟って、デフレが長期化すると市場は読んでいるものと思う。その一方、金と商品指数が上昇している。デフレ環境下の上昇は、世界が動乱化する前触れであろうか。

国内では「デフレ退治」議論が盛んだが、経済は「合成の誤謬」であり、退治されるほど簡単なものではない。

中部銀行の行方

今年3月に破綻した静岡市に本店を持つ第2地銀・中部銀行の引受け先が決まった。概ね次のようになるようだ。

	貸出金	貸出先数	従業員
清水銀	1,299億円	16,600	80人以上
静岡中央	396億円	5,800	30人以上
東京ｽﾀｰ	429億円	1,800	20人以上
RCC	769億円	2,155	10人

(注：先数には個人も含む)

未だ従業員600人の雇用が決まっていない(引受け3行への就職競争率は3倍以上)ようだが、中小企業にとって最大の関心事は「自社が何処へ行くか」である。

RCC行き企業は、貸出期限の一部延長(運転

資金は1年、設備資金は3~5年)を認められるようだが、契約通りの返済が出来ていない企業は回収対象となる模様。

優雅なるリストラ

追詰められて人員削減に踏み切った筈のみずほ銀行の希望退職の内実が明らかになるにつれ、「メガバンクの常識」が疑われている。

希望退職者には通常の退職金に平均40ヶ月の割増退職金を上乗せして支払うという。割増部分だけでも3千万円程度の計算になるらしい。しかもこれはメガバンク最低水準とのこと。「優雅なるリストラ」と揶揄されている。

第2地銀で昨年来危機に陥った福島銀行など「給与25%削減、夏冬賞与ゼロ」で年収半減が当たり前とか。大手銀行も「そのくらいやったら」とは犬の遠吠えか。

地銀の金利引上げ

日本経済新聞社のアンケート調査によると、地銀の9割が貸出金利引き上げを実施、乃至は検討中という。既に引上げを飲まされた企業は多いので特に驚くべき内容ではないが、私はむしろ「引上げに難航している」ように受取った。

今度明らかにしたいと思うが、銀行員が云う「信用リスクに応じた貸出金利」が単なる屁理屈に過ぎないことが背景にあると思う。

なりふり構わぬ資本増強

大手銀行がなりふり構わぬ資本増強に動いている。みずほ銀行が、今年スタートしたばかりの持ち株会社の上に更に持ち株会社を作るという奇策を恥じらいもなく発表したかと思えば、今度は三井住友銀行が第2地銀わかしお銀行と合併、わかしお銀行を存続会社とすると発表。歴史ある住友銀行が登記簿上消滅するという、誇りやプライドをかなぐり捨てた行為は、それだけメガバンクが追詰められている(資本が欲しい!)ことを示している。

今年1年、SMCレポートにお付き合いいただきどうも有難うございます。増々混迷を深める2002年も残すところわずかとなりましたが、皆様それぞれに良いお年をお迎え下さい。

尚、来春は1月11日(土)よりレポート送信を行う予定です。引き続き宜しくお願い申し上げます。

Weekly Fax Report

《転載・複製等はこちらまでご連絡下さい》

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/

2002.12.27(第341号)

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp